

リレー回想



30年を経て

依田 晃 (茂田井)

昨年11月に30年勤続スポーツ推進委員表彰を頂くことができました。これはひとえに立科町教育委員会関係者の皆様をはじめ、町民の皆様のご協力ご理解があったからこそ感謝しております。

昭和62年に立科町体育指導員の一人となり立科町のスポーツ行事に協力してきました。当時ご指導していただきました先輩、同僚また現在に至るまで一緒にス

ポーツ推進活動をしてきてくれた仲間感謝しております。

振り返れば、夏の分館対抗球技大会は、男性は野球からソフトボールに変わり、女性はバレーボールと現在も続いております。

少年スポーツ大会の小学生は、男女混合ソフトボールからドッジボール、そしてディスクドッチに変わり、中学生の男子は野球、女子はバレーボールでしたが男女混合ソフトバレーボールと変わりました。

10月の「歩け歩け大会」は、1度も中止することなく昨年で42回を数えました。運動不足がちな冬の分館対抗競技も卓球から綱引きに変わり31回を重ねました

が、昨年からふらばーるバレーに変わりました。

4年に1度の町民大運動会は、大変ですが楽しいイベントです。

競技には、審判員が必要です。試合の勝ち負けを審判することは大変です。試合の要ですので、大会に参加している方々のご理解とご協力をお願いいたします。

今後も立科町のスポーツ振興に微力ながら尽力していきたいと思っております。



クラブ訪問

立科句会

内藤 謙一 (町)

「立科句会」は、立科町の俳句同好者により俳誌「岳」の地方句会として、平成4年に設立されました。第1回句会は、同年7月に開催され、以来月1回の句会を催し、25年余を経て本年2月の句会で308回となりました。この間、会員は佐久市からの参加者も居り、現在は13名で活動しております。

講師を務めていただいている方は、初

回より窪田英治先生です。俳誌「岳」編集同人、現代俳句協会会員であり、当句会の他に10数か所で講師を務めておられます。

また、夢高で教諭をしておられたことがあり、ご存知の方もおいでかと思えます。

前掲の俳誌「岳」は、松本に事務所を置く「岳俳句会」の月刊誌で、主宰は現代俳句協会会長の宮坂静生先生です。当句会では、有季定型を基調に自然や生活日常目にする景色等を5・7・5の17音(定型)にまとめ、その中に季節感のある語(季語)を入れて1句とします。

毎月の句会には3句を提出し、先生に評と推敲をしていただきます。岳誌への

投句は6句です。

「俳句は季節の詩である」と言われています。頭を使うことは、認知症の予防にもなるかと思えます。

「去る者は追わず、来る者は拒まず」の会ですので、入会をお待ちしております。初心者も大歓迎です。

立科句会をよろしくお願ひ申し上げます。



編集後記

「温故知新」

これは、私も知っているとても有名な四字熟語です。しかし、今までその言葉の意味をきちんと理解していませんでした。

「故(ふる)きを温(たず)ねて新しきを知る、以て師となるべし」孔子が述べた、この論語から生まれた言葉です。

古い事柄を学んで新しい事柄を知り、そんな単純ではなく、古い事柄を学んで習熟することによって初めて新しい事柄を知ることが出来る、そういう意味のようです。

私の亡くなった祖父は生前、「人生は日々勉強だ」と言っていて、時には古文書を学んだり80を過ぎてても現代についていこうと携帯電話のメールを打つ練習をしたりと、本当に何でも自分でやってみないと気が済まない人でした。

最近、そんな祖父のことをよく思い出します。その当時は、まったく心になど響かず、むしろ反抗ばかりしていましたが、今になってようやくその時の言葉の重みを感じています。人生には、勉強以外にも学ぶ事がたくさんあります。それを活かすも殺すも自分次第です。実りのある人生を送るために、学ぶということをお忘れずに精進したいものです。

Y・K